

経済・金融  
フラッシュ企業物価指数(2015年5月)  
～輸入物価は円安で2ヵ月ぶりにプラス

経済研究部 研究員 岡 圭佑

TEL:03-3512-1835 E-mail: koka@nli-research.co.jp

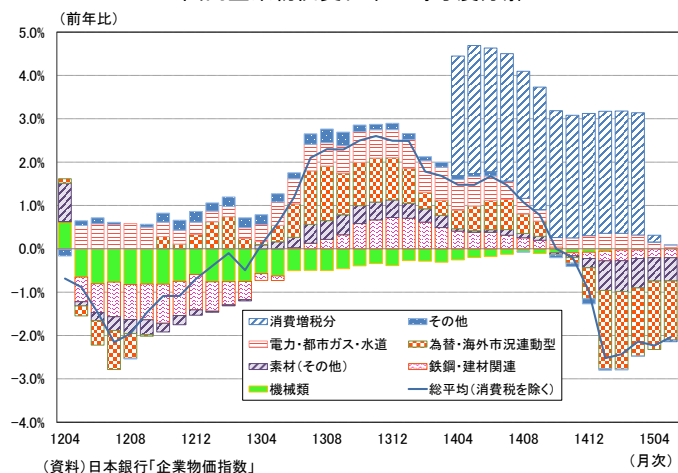
## 1. 企業物価(増税分除く)は下落幅が縮小

6月10日に日本銀行から発表された企業物価指数によると、2015年5月の国内企業物価指数は前年比▲2.1%（4月：同▲2.1%）と事前の市場予想（QUICK集計：前年比▲2.2%）を上回った。消費増税の影響を除いたベースでは、前年比▲2.0%（4月：同▲2.2%）と年初から▲2%を超える下落幅が続いている。

企業物価（消費増税の影響を除く）に対する下落寄与が大きいものは、素材（その他）（同▲0.5%）、為替・海外市況連動型（同▲1.4%）など、引き続き原油などエネルギー価格の影響を受けやすい品目となっている。そのほか、中国など需給の悪化を受けて、下落基調にある鉄鋼・スクラップ等の鉄鋼・建材関連（前年比寄与度▲0.2%）が押し下げ要因となっている。

前月比では0.3%（4月：同0.1%）と3ヵ月連続でプラスとなった。食料品・飲料・たばこ・飼料（4月：前月比0.3%→5月：同0.0%）、金属製品（4月：前月比0.8%→5月：同0.1%）などの伸びが縮小する中、原油安の一巡に伴い石油・石炭製品（4月：前月比▲0.1%→5月：同3.8%）が大幅なプラスに転じたため、全体では伸び率を高める格好となった。

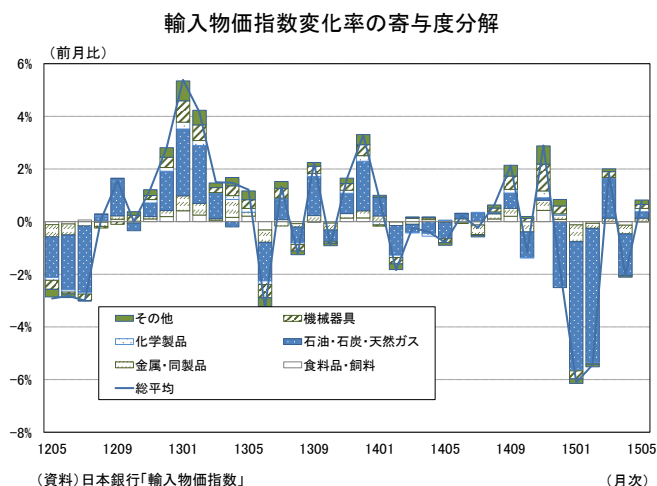
国内企業物価変化率の寄与度分解



## 2. 輸入物価は円安で2ヵ月ぶりにプラス

5月の輸入物価（円ベース）は前年比▲8.3%（4月：同▲9.8%）と、原油安の一巡に伴い下落幅が縮小している。前月比では0.8%（4月：同▲2.1%）と2ヵ月ぶりにプラスとなった。

円安を主因として食料品・飼料が前月比▲0.1%（4月：同▲1.5%）と下落幅が縮小したほか、前月に大幅低下となった金属・同製品（4月：前月比▲3.1%→5月：同1.3%）、石油・石炭・天然ガス（4月：前月比▲5.3%→5月：同0.8%）がプラスに転じたことが輸入物価の押し上げ要因となった。原油価格、非鉄金属の下落が一服したほか、ドル円相場（中心相場/月末）は4月の118.5円/ドルから5月に123.8円/ドルまで円安が進行したことが影響している。

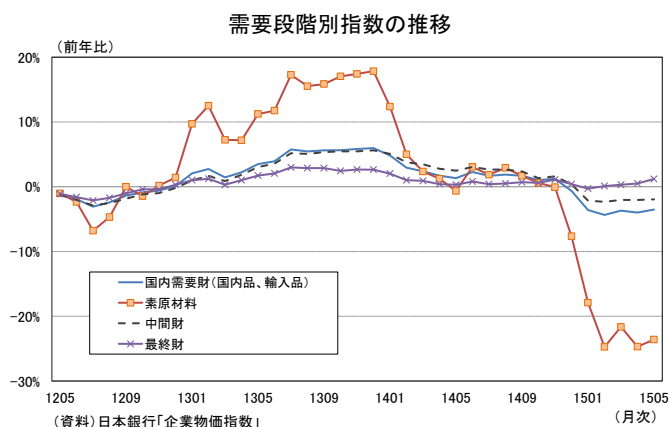


### 3. 最終財は夏場以降上昇基調が明確に

5月の需要段階別指数（国内品+輸入品）をみると、素原材料が前年比▲23.6%（4月：同▲25.1%）、中間材が前年比▲1.9%（4月：同▲2.1%）、最終財が前年比1.2%（4月：同0.8%）となった。

国内需給の改善に伴い、最終財は15年1月の前年比0.1%から5月には同1.2%まで伸びが拡大している。国内需給の改善に伴い、価格転嫁が進みやすい状況にあると考えられる。

先行きについては、原油安の一巡や円安に伴い素原材料の下落幅が縮小する中、内需の回復を背景に価格転嫁が進むことから、夏場以降最終財の上昇基調が明確なものとなるだろう。



### 4. 国内企業物価は下落幅が縮小へ

国内企業物価の下落幅は、年初をピークに縮小傾向にある。国際商品市況は足元で原油安が一巡しているほか、非鉄金属などの下落には一服感もみられる。また、為替については、米国が利上げに向かう中、日本銀行による量的・質的金融緩和が継続されるため、緩やかな円安が続くだろう。こうした下で、国内景気は緩やかな回復を続けることで需給が改善し、価格転嫁の進展もあり、国内企業物価は下落幅を縮小することが見込まれる。